

KSK

# あゆみ会報

2022年11月号 第183号

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会  
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地  
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

編集 湘南あゆみ会  
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内  
TEL/FAX 0463-24-0420

## 報告

### 10月定例会 平塚福祉会館まつり

10月21（金）22（土）日 恒例の平塚福祉会館まつりが行われ、湘南あゆみ会も販売部門と展示部門に参加しました。

昨年はコロナ感染拡大予防の観点から秋の開催は翌3月に延期となったため販売できる物が少なく、また入場者数の制限もあり寂しい集いでしたが、今回はそのような制限もなく大勢の入場者でにぎやかな集いとなりました。

みどり農園の野菜類は夏の天候の不順が影響し、販売できるものは限られましたが、幸い里芋とサツマイモが良くできたため、市場の価格よりも安く提供することができ、皆様に喜ばれました。

東北支援の昆布・わかめは会館に問い合わせがあるほど人気があり、また 新米はるみも完売しました。ほかに柿、自然薯なども提供があり、お蔭で予想以上の商品を揃えることができました。

展示部門では絵画・レース作品など3人の方が出展して下さり、会場に芸術の香りを放つことができました。

ご協力下さった皆様のお蔭で、無事福祉会館まつり参加を終了することができお礼申し上げます。

以下の通り会計報告を致します。

収益はあゆみ会本会計に繰り入れました。

売り上げ総額	¥146,500-
仕入れ総額	¥91,610-
売上利益	¥54,890-

## 報告と感想

### みんなねっと全国大会広島大会

2022年度のみんなねっと全国大会は10月13日（木）・14日（金）広島市で開かれました。じんかれんからは2人が現地参加しましたので、概略ですが報告と感想を記載します。

今年も昨年の東京大会と同様にオンライン配信も行われ、現地に行かなくても様子を知ることができましたが、やはり開催地の皆様のご苦勞を勞うことも大事と、早朝の新幹線で出かけました。

会場の JMS アステールプラザはホテルも併設し、2つのホールを持つ大きな建物で、平和記念公園にも近く、緑の豊かな町中にありました。

1日目の全体会での基調講演は「地域において精神障害者と家族が安心して暮らせるために」のテーマで、石井知行氏（精神科医・広島県障害者自立支援協議会会長）の講演でした。その中で強調されたのは、当事者を支える家族への支援と社会の中に今も存在する様々な偏見差別を解消することが安心して地域で生活するために不可欠であるということ、それと家族会が強くなること。それには理論と政治力が必要であるという点でした。こういう方が県の自立支援協議会の会長として存在してくれることに希望が持てました。

特別講演（1）の「誰もが自分らしく暮らせる地域のために」の藤井千代氏の講演はリモートで行われちょっと残念でした。昨年私たちは“県民の集い”で氏の講演を聴きましたが、今回はご自分の育った家庭での問題に細かく触れ、精神障害者（実の父）を医療につなげる事の難しさ、経済的困窮から来る生活の破綻、強制入院させた事への罪悪感、それらから立ち直るまでにかかった期間など赤裸々なお話と、それだからこそ如何にアウ



トリーチ、早期支援、多職種・多機関による地域支援、地域ケアの充実、正しい知識の普及などが必要であるか、地域住民の理解と公助の大切さ、「心の問題」の大切さ、「にも包括」は“にも”を取り除き全住民を対象にした地域共生社会の実現が必要であるというお話は氏の体験に基づいた願いであるだけに、力強く響きました。

特別講演(2)の「原爆被爆体験」八幡照子氏のお話は原爆体験証言者として回を重ねておられるのか、84歳とは思えないほどの迫力でした。ご自身は爆心地から少し離れた所で被爆し、爆風で吹き飛ばされたものの、両親兄弟そろって河原に避難したとのこと。残留放射能もいっぱい浴びて来られたでしょうに、今も元気で活躍しておられるお姿に驚きと感動を覚えました。

2日目、分科会は4つ行われましたが、第2の分科会「家族相談支援のあり方」に出席しました。2人の方が体験発表をしましたが、1人目の方は地域家族会で親父の会、発達障害者の会、引きこもり者の会などを立ち上げ、問題解決のために同行支援もするなど、積極的に行動してきた方。2人目は精神科病院の家族会支援事務局での経験を元にACTを立ち上げた方。2人とも問題解決のために行動してきた方ですが、最後の助言者の話になるほどと思われました。それは家族だからできる支援は孤立を防ぐことであると。家族という同じ立場での傾聴は、相談者の気持ちを受け止めることにより課題に向き合う力を与えると。問題解決型支援に伴走型支援（緩やかにつながり続け、孤立させない支援）を加えることにより、何度も起こってくる波を乗り越える事ができる。家族会の重要な役目はここにあると。大変良いアドバイスを頂いた分科会でした。

ホテルを早朝に出て平和記念公園に行き、『二度と過ちを繰り返しませんから』という碑文を心に刻み、佐々木禎子さんの折り鶴の塔をしっかりと見上げ、ひっそりと木立の中に立つ学徒動員の塔に彼らの無念さを想い、原爆の塔を一回りしてしっかりと目の奥に焼きつけ、永遠の火に世界の平和を心から祈りました。僅かな時間でしたが原爆資料館を観、想像を絶する火の玉を生きている

人々の頭上に落とした非人道的行為を思い、今また同じ過ちを犯すかもしれない人たちにこの資料館を観て考えてほしいと強く願いました。

「広島  
の川面静かに空映し  
世界の平和心から祈る」

(谷田川 記)



## これからの予定

秋のバス旅行は  
多摩草むらの会を見学します。

参加申込み お急ぎ下さい！！

再掲

2022年11月28日(月)

集合時間：午前8時15分

場所：平塚駅南口 JA ビル前

参加費：当事者 1000円

家族 2500円

(昼食代、保険料込み)

募集人数：20名

申込・問合せ先：倉鹿野 080-1229-5560

申込者数にまだ少し余裕があります。参加希望の方は22日までに至急お申込み下さい。

前に一度見学した所ですが、素晴らしい複合型社会復帰施設ですので再度見学します。



## 12月16日（金）サロンあゆみ

13:00～16:00 ひらつか市民活動センター

A 会議室

前半に進捗管理型心理勉強会を引き続き行います。井上雅裕講師の説明は具体的で解りやすいと好評です。更に勉強を続けて行きましょう。

## 12月22日（木）SST勉強会

13:30～16:30 ひらつか市民活動センター

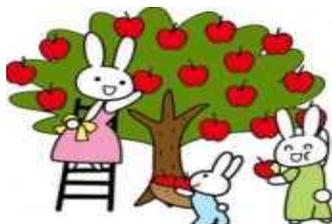
B 会議室

今年度2回目のSST勉強会を行います。

当事者、家族の気持ちに寄り添ってお話し下さる高森先生のお話は心を癒やしてくれます。ふるってご参加下さい。

## 1月定例会 新年会予定

詳細は次回お知らせします。



## 『ヤングケアラーとは』

最近 ヤングケアラーの問題が漸く社会で取り上げられるようになりました。

今年度のじんかれん主催の「県民の集い」では、この問題について調査・研究を続けている澁谷智子氏を講師に招いて、講演とシンポジウムを行いました。

ヤングケアラーとは、病気や障害のある家族・親族の介護・面倒に忙殺されていて、本来受けるべき教育を受けられなかったり、同世代との人間関係を満足に構築できなかった子どもたちのこと。

大人が担うようなケア責任を引き受け、家族の世話全般（家事や介護、感情面、家計支援のサポート）を行っている18歳未満の子どもを指す。その子どもがケアしている者は、主に障害や病気のある親や高齢の祖父母、兄弟姉妹（ヤングケアラーがきょうだい児）などの親族である。

手伝いの域を超える過度なケアが長期間続くと、心身に不調を来したり遅刻や欠席が多くなったりして、学校生活への影響も大きい。進学・就職を断念するなど子どもの将来を左右してしまう例もあるとされる。

ヤングケアラーの年齢は国によって異なる。公的サポートの対象とされるヤングケアラーは、イギリスでは18歳未満。オーストラリアでは25歳まで。日本ではヤングケアラーの法律上の定義は存在せず、研究者等の定義から18歳未満とされるのが一般であるが、一般社団法人日本ケアラー連盟では、これに加えて、18歳～おおむね30歳代までのケアラーを「若者ケアラー」と定義している。ヤングケアラーの存在自体は周囲の人に「病気や障害のある親族をみている存在」として知られてはいるながら、その人数や実態は長い間把握できていなかった。

毎日新聞社が2020年3月に総務省の2017年就業構造基本調査を独自に分析し、家族などの介護を担っている15～19歳の若者は2017年時点で推計37,000人おり、そのうち約8割が通学しながら、週4日以上、勉強と介護を両立させていると明らかにした。

三菱UFJリサーチ&コンサルティングが2019年に実施した「ヤングケアラーの実態に関する調査」によると、以下の実態が明らかになった。

◆ヤングケアラーの家族構成は「ひとり親と子ども」が48.6%と最多。家族構成員の少なさから、介護にも協力せざるを得ない状況である。

◆ヤングケアラーの学校生活への影響に関する設問では、「学校などにもあまり行けていない(休みがち)」が31.2%。家族の介護が原因で「遅刻が多い」「授業に集中できない」「部活動に参加できない」など学校へは通っているけれど何らかの支障があると感じている人も27.4%。

◆「自分はヤングケアラーと認識していない」は44.5%、「分からない」が41.1%。8割以上の方が自分をヤングケアラーと認識していない。

◆子どもが家庭で行っているケアを支援する人の有無については、「なし」が54.3%。半数以上のヤングケアラーが支援者なしの孤立状態で介護を行っている。

以下提言

- ◆「ヤングケアラー」の概念の周知と「ヤングケアラー」に対する偏見等の払拭。
- ◆ケアすること自体を否定せず、「ヤングケアラー」の選択肢を広げられるような支援が必要。
- ◆「ヤングケアラー」を含めた家族支援に関する制度上の位置づけが必要。
- ◆子どもがケアを担わなくても済むような施策・対応の充実。
- ◆「ヤングケアラー」の子どものメンタル面へのサポートの必要性。
- ◆「ヤングケアラー」への支援は多層的。

(出典ウィキペディアなどインターネットより)



## 投稿 「母の教えと今の私」

- \*見た目だけで人を判断するな  
金持ちでも心は貧乏人 それなりの理由から路上生活者 障害があっても得意分野がある
- \*言葉と刃物は使いよう(馬鹿と鉄は使いようをもじって) 取り扱い注意 言葉は刃物と同様、乱暴に扱うと人を傷つける 時には命を

絶つ 上手に使うと生活や心が豊かになる

- \*子どもを感情的に怒るな
- \*暴力は禁物  
(家族の病気から学ぶ)
- \*自分の人生を大切に
- \*イライラしないために時間に余裕を持つ
- \*ストレス耐性を高める 捉え方を幅広く
- \*いろいろな立場の人の話を聞き、自分勝手な偏見や拘りに気づく
- \*心の視野を広げる努力を
- \*完璧を求めず 怠ける事も大事
- \*子どもとの会話は笑顔とユーモア 友達感覚
- \*家庭は安息の場 ゴロゴロ・だらだらもOK
- \*病状悪化時は休養・仕事を休む
- \*悩みは聞くだけ アドバイスはしない
- \*子どもの人生・考え方に介入しない
- \*親の価値観を押しつけない
- \*本人の意志を尊重 指示はひかえる
- \*医者とは信頼関係を大切に  
求められない限り口出ししない
- \*禁句 ・死ぬな、生きているだけでいい  
→本人は生きている事が一番辛い  
・病気になって知らないことを知れて良かった →親の身勝手 本人は良く思っていない  
・この病気は治らない →無知と偏見が回復を妨げる (T. K 記)

## こんぺいとうのお知らせ

精神保健福祉ボランティアグループ

- 11月19日(土) 13:30~15:30 定例会  
福祉会館第2会議室
- 11月26日(土) 11:00~14:00 サロン200円  
ほっとステーション平塚  
老松町2-19 読売高野ビル5F  
DVD「不安の正体」鑑賞できます(65分)  
お声かけ下さい。
- 12月10日(土) 13:30~15:30 お茶会100円  
中央公民館3F和室